

開会のご挨拶

－はしがきにかえて－

日中犯罪学学術交流会会長

石川正興

今年も、日中犯罪学学術交流シンポジウムを無事に開催することができることになりました。これもひとえに、王牧先生をはじめとする中国犯罪学会の諸先生方の御蔭であると思います。開会に当たりまして、皆様方に感謝申し上げます。また、うれしいことに、今回の会場は、王牧先生と張凌先生がお勤めになっておられる中国政法大学です。とりわけお二人の先生には、お礼を申し上げたいと存じます。

この学術交流シンポジウムは、日中両国の研究者や実務家がそれぞれの国における犯罪現象とその対策のあり方を互いに紹介することによって、両国の刑事政策の発展に寄与するとともに、両国の研究者や実務家が親しく交流することを目的として、発足いたしました。「精神障害者による危害行為の対策」をテーマとしました昨年が第1回で、今年は第2回目になります。

このように、このシンポジウムは発足してわずかな歳月しか経過しておりませんが、不思議なことに、中国の先生方とはかなり昔からの旧知の間柄であるような親しみを、私は感じております。こうした親近感を感じることができするのは、西原春夫先生が早稲田大学総長時代から長い時間をかけて築いてこられた日中両国間の緊密な絆の賜物であると考えます。

西原先生は今年で八十歳を迎えられましたが、喜ばしいことに、先生の長年の功績に対しまして、昨年秋に、瑞宝大綬章（旧勲一等瑞宝章）という大変名誉ある叙勲をお受けになりました。このことを中国の皆様にご報告申し上げますとともに、改めまして一緒にお祝いを申し上げたいと存じます。

さて、今年のシンポジウムのテーマは「交通犯罪に対する法的対策」です。

自動車の普及に伴いまして、自動車交通に係る人身事故や物損事故、さらには環境汚染が激しい勢いで増加してきました。これは、現代社会にとっては避けて通ることのできない事態であると思います。

日本は1950年代から60年代にかけて、いわゆる「モータリゼーション社会」に突入し、それ以降、自動車事故や環境汚染の増加と、それを減少させるための叡智との「戦い」が繰り広げられています。

その戦いは、「交通戦争」と呼ばれるほどに、車と人との壮絶な戦いであり、私たちのような法律を専攻する者ばかりでなく、自動車や道路の安全設計、排気ガスや騒音対策に携わる工学系の人たちも巻き込んだ、まさに総力戦の様相を呈しています。

その甲斐があつてか日本ではこの数年、交通事故の発生件数は減少傾向にあり、また、それによる死亡者数も2007年には5千人台にまで減少しました。しかし、その一方で、酩酊運転や高速度運転などの危険な運転による事故は無くならず、被害者や被害者に同情する社会の人びとから厳しく糾弾され、厳罰化の方向での法律改正が行われてきました。これらの事柄につきましては、日本側の報告者の方がたから詳らかにされるはずです。

他方、中国は、日本に比べますと、遙かに多くの人口を抱え、国土も格段に広いわけですから、モータリゼーションは日本のそれを凌駕する早い速度で、しかも広範囲にわたって進行しているものと思われます。この点で、日本とは異なる、交通犯罪に対する法的対応策がおりなのではないかと推察しております。

いずれにいたしましても、今回のシンポジウムによって、日中両国が抱える交通犯罪問題に関する双方の理解が深まり、この問題に関する将来の学術や実務での交流が一層促進されていきますことを祈念して、私の挨拶とさせていただきます。